

PRESS RELEASE

彩の国さいたま芸術劇場 共催事業

川口隆夫 『大野一雄について』

今年度 NY ベッシー賞ファイナリストにノミネート！

世界 30 都市で絶賛された話題作、

この冬、さいたまに初登場！！



photo: Ayumi Sakamaoto @ Japan Society NYC 2016

2017 年 12 月 2 日（土）・3 日（日） 15:00

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

公演概要

公演名 ダンスアーカイヴプロジェクト作品4都市巡回 埼玉公演
川口隆夫『大野一雄について』

日時 2017年12月2日（土）15:00 開演
2017年12月3日（日）15:00 開演

会場 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

チケット【全席自由・税込】
一般 前売3,000円 当日3,500円
U-25* 前売2,500円 当日3,000円
*公演時25歳以下対象。入場時要身分証。

主催 NPO法人ダンスアーカイヴ構想
共催 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団、有限会社かんた
協力 大野一雄舞踏研究所、モルグ社
助成 芸術文化振興基金

問合せ 彩の国さいたま芸術劇場（公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団）
事業部舞踊担当 （広報）荻原文子、盛 裕花 （制作）関下景子
（プロデューサー）佐藤まいみ
Tel: 048-858-5506（事業部直通） Eメール：dance@saf.or.jp



Escenas do Cambio, Santiago de Compostela, Spain 2017

宣材用写真をご用意いたしておりますのでお気軽にお申し付けください。
本リリースの詳細、写真提供につきましては、担当宛てにご連絡ください。

企画コンセプト



ダンスアーカイヴプロジェクトは、残されたアーカイヴ資料に基づき、様々な方法で新しい表現を作り出し、歴史的な舞踊作品を再現する試みです。舞踊の歴史を考え、次世代に伝えることを目指しています。2015年からTPAM参加プログラムとして例年3作品程度発表してきました。その中から国際的に高い評価を受け、国内での再演が待望されていた『大野一雄について』を上演します。

企画背景

「舞踏」は、1959年土方巽の『禁色』に始まり、60代の前衛的な実験を経て、70年代には『痲瘡譚』（土方巽）、『ラ・アルヘンチーナ頌』（大野一雄）、『金柑少年』（山海塾）など、歴史的な作品を結実させ、欧米のダンス界に衝撃をあたえました。「舞踏」は、いまや「Butoh」として世界に広まっています。

2010年代に入りコンテンポラリーダンスの文脈においても「舞踏／Butoh」にあらたな光が当てられています。舞踏のアーカイヴ資料を出典として、作品を創作する試みです。ボリス・シャルマツ（フランス）『病める舞姫』、トラジャル・ハレル（USA）『ラ・アルヘンチーナの再来』、マルセロ・エヴリン（ブラジル）『病める舞』など、気鋭の現代舞踊振付家たちが独立した優れた作品を発表しています。なかでも、川口隆夫『大野一雄について』は、「大野一雄」の舞台映像を「完全コピー」という特異な方法論で、「舞踏」への視点を切り開くと共に、振付とは何か、オリジナリティーとは何か、といった舞踊芸術の根本命題に議論を投げかけました。

また、そうした圧倒的な国際評価にもかかわらず、1997年開館以来舞踊作品公演を主催することが一切なかった新国立劇場は、今年度初めて山海塾と大駱駝艦の公演を主催します。「舞踏」を取り巻く環境は、国内外で変化を遂げつつあり、「舞踏」をキーワードする異文化交流の新思潮が起きていると言って過言ではありません。

そのような背景において本作品は大野一雄アーカイヴに密接に基づき賛否両論を引き起こすほどに大胆な方法論を採用し、なにより「川口隆夫」と「大野一雄」という強烈なペルソナが交歓するという点で、世界の現代舞踊の最先端に立つものです。



大野一雄



土方巽（『痲瘡譚』）

『大野一雄について』について

本作は大野一雄の動きを70～80年代の公演記録映像を元に川口隆夫の身体へと写し取る、つまり、コピーする、パフォーマンス作品です。音響はビデオ収録音（会場の雑音やテープ劣化によるノイズを含む）をそのまま使用し、衣装や照明は当時のオリジナルデザインを踏襲。そしてダンスは、『O氏の肖像』（長野千秋監督映画 1969）および『ラ・アルヘンチーナ頌』（1977）の冒頭シーン（「死と誕生」）に着想を得た即興パフォーマンスに続き、下記を参照・コピーしています。

『ラ・アルヘンチーナ頌』初演映像（1977）より「日常の糧」「天と地の結婚」「タンゴ」

『わたしのお母さん』初演映像（1981）より「胎児の夢」「愛の夢」「ショパンピアノ曲のアンコール」

『死海』ジュネーブ公演映像（1985）より「ジプシー男爵入場行進曲」「天地創造の発端」（順不同）

また中盤には、大野慶人が大野一雄の指人形を使って踊る短編映像（飯名尚人 2016）が挿入されます。

「私は大野一雄の生前の舞台を見たことがない。最近写真やビデオでその踊りを見る機会があり、とても美しいと思った。うまく説明できないが、彼の体の動きのうねりやしなりに親近感を覚える。不遜にもどこかしらなにかしら自分と似ているところがあるんじゃないだろうか。私の中の官能のようなものを刺激してくる。それに身を委ねてみようと思った。



多分に即興的な要素を含み、また老齡というだけでなく故人の特異な身体的・運動的特徴や癖までも本質として含んだ大野の踊り。そこに足すも引くもなく、忠実にコピーしようと努めることは、コピーを行う側の解釈や特性を消して可能な限りその対象に自分を近づけようとすることに他ならない。しかし、重ねよう、寄せようとすればするほど、その重ならない部分、どうしてもはみ出してしまう部分が、逆に、その存在の消すことのできない有り様を浮かび上がらせるという、「コピー」であるがゆえに「オリジナル」であるという、パラドックス。

観る者はそこに生前の大野の面影を重ね、大野を知らない者もまたそこに大野の踊りを想像し重ねる。そうして複数の像が交互に前に出るいは後退する。『大野一雄について』は今亡き大野一雄との、幻のデュエットなのだ。」

川口隆夫

（2013年初演プログラムより
photo: Mara Arteaga @ Mexico City

出演者及びスタッフ

コンセプト・演出・出演	川口隆夫
振付	土方巽・大野一雄
ビデオ出演	大野慶人
ドラマトゥルク・サウンド・映像	飯名尚人
照明	溝端俊夫
衣装	北村教子



photo: Maria Baoli @ Kunstenfestivaldesarts 2016



photo by Hiroki Obara

川口隆夫 プロフィール

1996年よりパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。並行して2000年よりソロ活動を開始。主な作品に『ディケノヴェスー見えないと言え』(2003)、『D.D.D. — 私の心臓はあと何回鼓動して止まるのか?』(2004-07)、『グッド・ラック』(2008)、『TABLEMIND』(2011)。近年は『病める舞姫をテキストに — 2つのソロダンス』(2012)、『大野一雄について』(2013)など舞踏についてのパフォーマンス作品を制作している。また東京国際レズビアン&ゲイ映画祭のディレクター(1996-99)を務めるなど、その活動は多岐に渡っている。

上演歴 30 都市 53 回 公演 (2017年11月1日現在)

2013年8月	初演 東京 d-倉庫「ダンスが見たい」フェスティバル
10月	横浜 大野一雄フェスティバル
2015年2月	横浜 Dance Archive Project
9月	光州(韓国)、ミュンスター(ドイツ)、ザグレブ(クロアチア)
11月	京都 春秋座
2016年5-6月	ブリュッセル(ベルギー)、ビルバオ(スペイン)、リスボン(ポルトガル)
8月	ジャカルタ、ジョクジャカルタ(インドネシア)
9-10月	北米7都市ツアー: ニューヨーク、ロサンゼルス、ピッツバーグ等
2017年1月	ノルマンディー(フランス)
2月	サンティアゴ・デ・コンポステラ(スペイン)、メルボルン(オーストラリア)
4-5月	メキシコツアー: ソノラ、メキシコシティ
8-9月	欧州南米ツアー: ウィーン(オーストリア)、ベルリン(ドイツ)、ワルシャワ、クラコフ(ポーランド)、サルバドール、カンピーナス(ブラジル)
10月 札幌、	11月 神戸
2018年予定 10月	パリ市立劇場エスパス・カルダン、レイナ・ソフィア美術館(スペイン)ほか

「伝説の前衛舞踊家に捧げる

全身全霊の讃歌！」（ロサンゼルス・タイムズ紙）

「メランコリーに満ち、愛嬌たっぷりの真に
艶やかなパフォーマンス」（米・ニューヨーク
タイムズ紙）

「その踊りは、「形」と「魂」との間で、激
しく震え出す」（韓国・光州 アジアン・カ
ルチャー・センター）

「コピーすることの不可能性から生まれた、
唯一無二の忘れがたいソロダンス」（仏・
アンロクブティブル 誌）

「形という表層に任せることで、身体も心も自
由を得られるのではないかという、すがすがし
い風景」（シアターアーツ誌、坂口勝彦）



photo: Naoto Iina @ Asian Cultural Center 2015

ニューヨーク、ジャパン・ソサエティーでの上演（2016年9月）が、
ベッシー賞 2017ファイナリストにノミネート！！



photo: Koichiro Takagi @ Japan Society NYC



関連企画

● 川口隆夫ボディ・スカルプチャー・ワークショップ「大野一雄について」制作過程から

2017年11月3日（金祝）・4日（土） 14:00～17:00

会場：彩の国さいたま芸術劇場

このワークショップでは、大野の代表作初演記録ビデオ（抜粋）を見て、その踊り／動きを「コピー」することを試みます。何気ない小さな動きから、彼の身体やその周りに生成する空間の連なり、意識・無意識を問わず、つまずきやズレに至るまで細部を細かく観察し、あたかも身体を彫刻するように、「形」を自分の身体へと写しとっていきます。

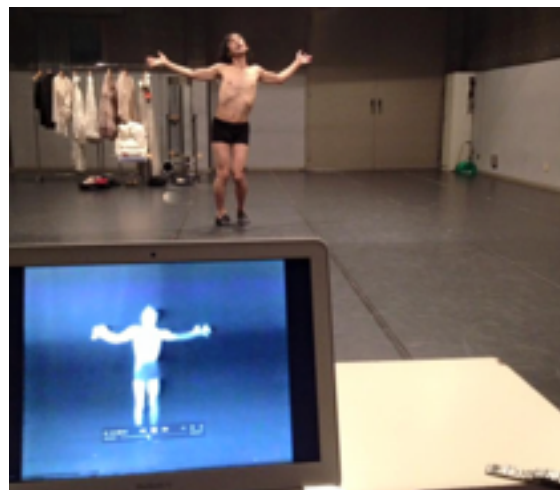
問合せ NPO法人ダンスアーカイヴ構想

TEL：03-3450-6507

E-mail：info@[dance-archive.net](mailto:info@dance-archive.net)

参加料：2日間で6,000円

※本公演チケットをお持ちの方は5,500円



● 展示「モダンダンスから舞踏へ」

2017年11月3日（金祝）～12月3日（日）

9:00～22:00（休館日除く）

会場：彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア

入場料：無料

大野一雄の写真、ポスター、草稿などのアーカイヴ資料を展示します。特別展示として、「舞踏」前夜のモダンダンス作品「老人と海」（1959）のオープンリール音源デジタルマスター、当時大野一雄がヘミングウェイに宛てた書簡原稿等を初公開します。



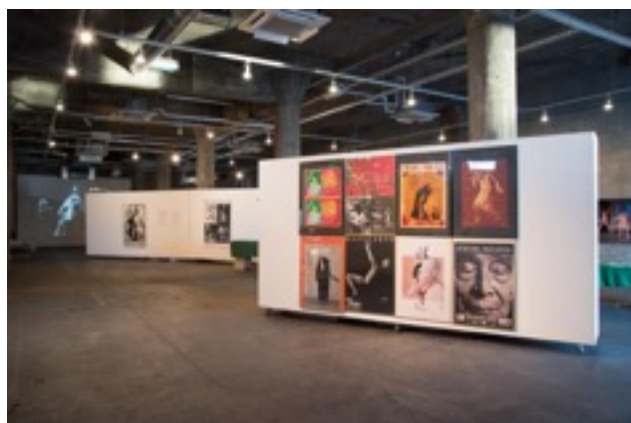
★ オープニングパーティー

2017年11月3日（金祝）

17:30～18:30

展示初日にささやかなパーティーを行います。

ぜひご参加ください。



● 大野一雄アーカイヴ映像上映



川口隆夫『大野一雄について』の出典となる、大野一雄のモノクロ映画『O氏の肖像』（1969）、および『ラ・アルヘンティーナ頌』（1977）初演記録映像を上映します。貴重な20世紀舞踊の歴史的映像です。デジタルマスターからのDVDとBlu-rayによる上映です。

入場料：無料。ただし、本公演チケット提示が必要です。

12月2日（土）13:00～14:10『O氏の肖像』（1969）

12月3日（日）13:00～14:10『ラ・アルヘンティーナ頌』初演（1977）

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール



photo: Naoto lina @ ImpulsTanz, Wien 2017